

実践！施策につながるデータ分析

ー戦略・戦術の原点回帰が拓く、インサイト創出の道

NIKKEI-R

JMRAミニセッション

01

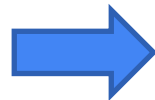
1. 戦術思考の弊害

戦略と戦術

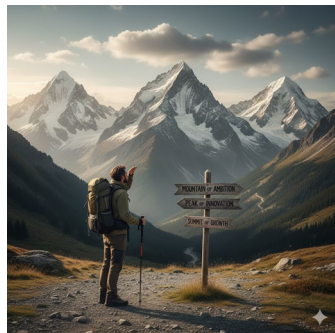
戦略：目的達成のために目指すべき方向を設定する

戦術：そこに辿り着くまでの具体的なアクションプラン

戦略



戦術



現場で起こりがちな戦術思考

マーケティング：施策から考えてしまう

調査・分析：手段から考えてしまう

(インターネット調査、インタビュー、機械学習、テキストマイニングなど)



戦略がないため、最も解決すべき課題に取り組めず、大きな成果を得られない

戦術思考の加速

- ・ 生成AIの普及により、何でも相談できる環境になりました
- ・ しかし、相談できる環境になったからからこそ、「**とりあえずやり方を聞いてみよう**」という戦術思考が進んでしまったのも事実です



ChatGPT

✧ Claude

✧ Gemini


Copilot

02

2. 戦略への回帰

戦略から考えていく

- ・ 調査・分析で思うように結果が出ないのは、手段（戦術）が先行し、目的（戦略）がはっきりしていないからです
- ・ 調査・分析の目的は事業戦略を基に考えていきます
- ・ 事業戦略をブレイクダウンし、調査・分析で明らかにできるレベルにしていきます

調査・分析のサイクル

- 1 事業戦略から目的を考える
- 2 目的を基に、課題を考える
- 3 課題を基に、調査企画～調査実施 or 企業内データの抽出
- 4 目的に沿って、分析を実行する
- 5 分析結果から新たな仮説を創出する
- 6 仮説を基に、施策を実施 or 仮説を深めるためにもう一度調査を実施

03

3. 分析事例について

事例の進め方

- ・ 本事例ではマーケティング戦略に焦点を当てます
- ・ マーケティング戦略「だれに」「何を」をインターネット調査で明らかにし、戦術として「どのように」を考えるためにインタビュー調査をしていきます



1、2、3の順番に分析を進めます。

分析ツールの紹介

弊社の「Key Explorer」を活用

- ・ Key Explorerは、ユーザーが直感的にデータを探索できるツール
- ・ 大量のクロス集計と自由回答から特徴的な箇所を抽出することができる
- ・ 大量のデータを効率的に分析したいときに適したツール

調査データの説明

「ビジネスパーソンのお困りごと」を集めた自主調査を活用

調査対象者	ビジネスパーソン(経営者・役員、正社員・職員、商工自営・自由業)
調査内容	仕事上の困りごと(大項目16分類、中項目144分類) └ 困りごととして感じている具体的なシーン(自由回答)
調査方法	インターネット調査
サンプリング	日経ID会員(リサーチモニター)※本調査は個人を対象としたもので、対企業調査ではありません
調査地域	全国
回答者数	13,421
調査実施	2024年に調査を4回実施、4回分のデータを統合

分析者のペルソナ設定

SaaSの営業担当者

- ・ ワークスペースSaaSを取り扱う営業担当

※ Notion (<https://www.notion.com/ja>)を想定。

- ・ 新たな販売先を探しており、ホワイトカラーの業界はほとんど開拓済み
- ・ 分析を通じて、新たな販売先の候補を見つけたい

事業戦略、マーケティング戦略、調査目的、調査課題

事業戦略	2026年にワークスペースSaaSの売上を～円にする └既存の売上の伸びでは目標に達しないので、新規開拓をする必要がある
マーケティング戦略	未開拓業界で、ワークスペースSaaSの顧客を開拓する └ホワイトカラーの業界はほとんど開拓しており、新規開拓が難しい
調査目的	ワークスペースSaaSの提供価値にフィットする業界を見つける └未開拓の新しい業界でホットリードになりそうなところを見つけたい
調査課題	・ ホワイトカラー以外の業界で、自社商品にフィットする業界があるのか明らかにする └だれに ・ 自社商品にフィットする業界がどんな課題を抱えているのか調査する └なにを ・ 自社商品への反応とアプローチ方法を調査する └どのように

04 4. 分析事例:「だれに」を特定する

自社商品で解決できる課題を定義する

Q1_お困りごと大分類	Q2_お困りごと中分類
業務量・時間管理	生産性向上、業務効率化
	業務の見える化、タスク管理
対人関係・チームワーク	情報共有不足
	コミュニケーション不足
ワークライフバランス	非効率による長時間勤務
人材の採用・教育・活用	スキルや知識の継承
労働環境・意欲	デジタル化・ICT活用への対応
デジタル・技術革新と適応	DXの導入と推進
社内の業務プロセス・ワークフロー	業務マニュアルの不足
	デジタル化・システム化の遅れ
	業務の属人化
	業務が縦割り

属性情報から「だれに」を特定する

説明変数

目的変数

Q1_お困りごと大分類	Q2_お困りごと中分類
業務量・時間管理	生産性向上、業務効率化 業務の見える化、タスク管理
対人関係・チームワーク	情報共有不足 コミュニケーション不足
ワークライフバランス	非効率による長時間勤務
人材の採用・教育・活用	スキルや知識の継承
労働環境・意欲	デジタル化・ICT活用への対応
デジタル・技術革新と適応	DXの導入と推進
社内の業務プロセス・ワークフロー	業務マニュアルの不足 デジタル化・システム化の遅れ 業務の属人化 業務が縦割り



設問番号	説明
F1	性別
F2	年代
F3	職業
F4	役職
F5	職種
F6	業種
F7	業種_詳細
F8	従業員規模
F9	売上高
F10	どこに向けたサービスか

特徴的な属性をランキング形式で表示

全体順位	説明 変数名	説明変数	集計	特徴量
1	f3	F3.職業=経営者・役員、正社員・職員	+	31.9
2	f9	F9.売上高=1兆円以上	+	16.1
3	f6	F6.業種=製造業	+	15.3
4	f4	F4.役職=主任/係長	+	15.0
5	f5	F5.職種=一般事務	+	14.8
6	f4	F4.役職=一般社員	+	14.4
7	f4	F4.役職=課長	+	14.2
8	f5	F5.職種=技術・設計	+	13.5
9	f6	F6.業種=公務（他に分類されるものを除く）	+	12.7
10	f7	F7.業種=電子部品・デバイス・電子回路製造業	+	12.3

「だれに」の決定

製造業、公務（公務員）をターゲット属性とする

- ・ 未開拓の業種だったため、上記の2業種をターゲット属性とする

5. 分析事例:「なにを」を特定する

お困りごとの詳細から「なにを」を特定する

目的変数

Q1_お困りごと大分類	Q2_お困りごと中分類
業務量・時間管理	生産性向上、業務効率化 業務の見える化、タスク管理
対人関係・チームワーク	情報共有不足 コミュニケーション不足
ワークライフバランス	非効率による長時間勤務
人材の採用・教育・活用	スキルや知識の継承
労働環境・意欲	デジタル化・ICT活用への対応
デジタル・技術革新と適応	DXの導入と推進
社内の業務プロセス・ワークフロー	業務マニュアルの不足
	デジタル化・システム化の遅れ
	業務の属人化 業務が縦割り

&

業種

製造業

OR

業種

公務(公務員)

説明変数

Q2_fa_お困りごとの詳細

自由回答を形態素解析にかけて、単語に分けたものを説明変数とする



製造業の特徴的なお困りごとをランキング形式で表示

全体順位	説明 変数名	説明変数	集計	特徴量
1	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=属人		79.1
2	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=継承		78.2
3	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=業務		73.1
4	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=マニュアル		69.6
5	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=DX		44.9
6	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=人		42.4
7	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=進む		39.0
8	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=共有		36.6
9	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=情報		28.7
10	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=ノウハウ		26.2
11	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=担当者		24.7
12	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=タスク		23.7

補足)生成AIの要約機能を活用

- ・要約機能を駆使し、全体傾向を掴んだうえで原文を確認していく

以下は、データから得られた「属人化」に関する主な傾向をまとめたものです。

1. 業務フローやマニュアルの不備

- － 業務フローが不明瞭で、統一されたマニュアルが存在しないため、業務が属人化している。
- － マニュアルが存在しても、実際には活用されておらず、引継ぎが不十分。

2. 知識とスキルの属人化

- － 知識やスキルが個人に依存しており、組織全体での共有が進んでいない。
- － 特に製造現場でのスキル属人化が顕著で、次世代への継承が難しい。

3. 人材不足と教育の不十分さ

- － 人材の継続的な採用ができておらず、教育が不十分なため、業務が特定の人に集中している。
- － 後継者不足により、特定のスキルを持つ高齢者に業務が集中。

4. 業務の効率化と計画の難しさ

- － 属人化により業務の効率化が進まず、計画的な業務遂行が困難。
- － 業務の見える化ができておらず、非効率な業務遂行が続いている。

5. 組織文化と意識の問題

- － 知識を体系的に整理して引き継ぐ文化が根付いておらず、属人化が進行。
- － 経営層が属人化のデメリットを認識していない場合がある。

6. システム化と標準化の不足

- － システム化が進んでおらず、属人的なやり方が生まれやすい。
- － 標準化活動が進んでいないため、属人化から抜け出せない。

7. 業務のブラックボックス化

- － 属人化により業務がブラックボックス化し、担当者以外が業務内容を把握できない状況が生じている。

製造業の特徴的なお困りごとから自由回答の原文を抜粋

ワークスペースSaaSの導入で解決できそうな課題も多いが、人手不足が大きな問題として背景にあるかもしれない

- ・ 属人的な業務が多く、代替が効かない。自動化ができず、業務の効率化が図れない。
- ・ 人材不足により、年齢層が上がり、技術の継承がままならない。
- ・ 長期にわたる人員不足から若手、中堅層の人材育成 が遅れている。この結果相応のスキルを保持した人員 が不足し業務の属人化が進んでしまっている。
- ・ マニュアル化されていない業務が多い。
- ・ クラウドかオンプレかといった基本的なことから、そもそもどのツールがDX化の肝になるのか最適な解が見つからない
- ・ 継続的に人を採用出来ず、マニュアル作成 も完全ではないので仕事が属人化してしまい その人でないといけないものがある

公務の特徴的なお困りごとをランキング形式で表示

全体順位	説明 変数名	説明変数	集計	特徴量
1	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=業務		27.9
2	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=職員		19.7
3	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=紙		17.9
4	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=マニュアル		17.1
5	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=進む		16.6
6	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=デジタル化		13.2
7	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=継承		12.4
8	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=デジタル		10.8
9	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=担当者		10.4
10	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=作成		10.1
11	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=効率化		9.9
12	wd_ja_q2_fa	wd_ja_q2_fa.具体的なお困りごと=情報共有		9.7

公務の特徴的なお困りごとから自由回答の原文を抜粋

「非効率的な業務を減らす」「タスク管理を手助けする」などの部分が、ワークスペースSaaSの導入で解決できるかもしれない

- ・業務の電子化がされていない。
- ・仕事ができる人に業務が集中している。
- ・必要のない業務の洗い出しができていない。業務の見える化とタスク管理が必要。
- ・未だに決裁において紙が9割。
- ・紙とデジタルが混在することで、より不具合が生じやすい。
- ・紙をスキャンし電子化する作業をデジタル化だとしているところ
- ・個別場面ごとのマニュアルはあるものの、点在していて探しにくい。

ターゲットの決定

公務員にターゲットを絞り込む

- ・ 製造業の課題の背景には人手不足が潜んでいる可能性があり、一朝一夕には解決できない
- ・ 公務員の課題は、ワークスペースSaaSで直接的に解決できる部分が多いと判断
- ・ 「業務の見える化とタスク管理」「紙での業務の削減」「マニュアルの検索性向上」という課題にターゲットを絞る

06 6. 分析事例:「どのように」を考える

インタビュー対象者

対象者属性

属性	詳細
年齢	63歳
性別	男性
職業	地方公務員
経歴	一般職員ではなく技術職 40年近く勤務し、定年後は現在まで嘱託職員として従事 課長、所長などの管理職を10年以上歴任

インタビュー結果_課題と解決策

課題	マニュアルは存在するが、量が多く覚えるのに時間がかかる
課題を感じるシーン	警報が鳴ると迅速な対応を求められるため、マニュアルを暗記していないと対応できない マニュアルが一つのWordファイルにまとまっているためページ数が多く、目次を読んでも該当箇所を探すのに時間がかかる
課題を感じた理由	若手職員が警報の対応に当たったときに、確認作業に時間が取られていたため また、若手職員が繁忙でマニュアルや関連文書の読み込みができず、技術不足が問題になったため
現状の解決策	生成AIが導入され、マニュアルを参照してAIが回答する取り組みが始まった
現状の解決策で気に入らなかった点	自由に使えるわけではなく、使用量に限度がある また、一部の部署でしか取り組みが進んでおらず、自分の部署では何も進んでいない
Notionについての反応	若手職員が業務を早く覚えられるようになるなら興味がある しかし、セキュリティや価格の問題、既に他社の生成AIやOffice 365が導入されていることから、新しく導入することは難しいかもしれない

インタビュー結果_営業のプロセス

担当部署	デジタルトランスフォーメーションを推進している課(※自治体によって名称は異なる)
予算	来年度の予算を前年の8月から組み始める
営業する時期	前年の5月～6月に担当者にコンタクトを取る必要がある
アポ取り	担当部署に電話をかければ担当者に繋いでもらえることが多い
承認フロー	担当係長→課長→部長→知事の順で、特に課長、部長の承認が難しい
入札仕様書	情報収集に協力した企業のサービスをもとに入札仕様書が作成されるケースが多い
入札について	基本的には、仕様書の内容を満たした中で最も見積が低い企業が採用される

インタビュー結果から考える営業戦略

2つ～3つほど、自治体のヒアリングを継続する

- ・ 先進的な取り組みをしている自治体に入り込むのは難しい
- ・ 自治体によって取り組み状況は異なるはずなので、自治体のヒアリングを実施する
- ・ アポ取りは難しくなさそうだが、入札までに工数を取られるので費用対効果が合っているのか慎重に判断する

弊社サービスの紹介

ブースにてご案内しております

サービス名	概要
日経IDリサーチサービス	BtoBの調査に強いサービスです └分析事例の調査で使用しました
Key Explorer	データマイニング・テキストマイニングを簡易に実行できるツールです └分析時に使用しました
日経リサーチ セルフインタビューサービス	日経IDモニターに直接インタビューできるサービスです └現在、β版を提供中です



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル
TEL : 03-5296-5101
Mail : keyexplorer@nikkei-r.co.jp
URL : <https://www.nikkei-r.co.jp>